

滋賀医科大学がマトグロッソ連邦大学(ブラジル)と国際交流協定を結び、日系ブラジル人の医学生が自主研修を行うことになりました。

(送信枚数：本紙を含む2枚)

滋賀医科大学では、このたび、ブラジル連邦共和国のマトグロッソ連邦大学と国際交流協定を締結する運びとなりました。これに伴い、本学に所属する日系ブラジル人の医学生が同大で8～9月に3週間の自主研修を行います。

日系ブラジル人の子弟が本邦の医学部に入学する事例は珍しく、本学では初めてのケースとなります。当該学生は、将来、医療分野で日本とブラジルの架け橋となることを望み、日系ブラジル人が多数居住する滋賀県内で地域医療に携わることも選択肢の一つとして考えています。本学もこの協定締結を足がかりに、地域に根ざした国際交流を多方面にわたって進めていく所存です。

つきましては、本学の国際交流について広く周知いたしたく、報道方よろしくお願いたします。

・協定機関情報

マトグロッソ連邦大学

1970年開学 学生数3万人 6キャンパス／27学科・研究所

全国学生能力試験1位(医学部：2007年度／ブラジル教育省所轄研究機関 INEP 実施)

ブラジル国内大学ランキング33位／192校中(2015年、Folha De S.Paulo 紙)

・研修内容

2017年8～9月(3週間) マトグロッソ連邦大学およびクイアバ市立病院で、公衆衛生、母子医療、成人病などに係る研修

※自主研修を行う医学部医学科第4学年の学生からのプロフィールと本人コメントは別紙のとおりです。

《詳細に関するお問い合わせ先》

滋賀医科大学 国際交流支援室・助川

TEL：077-548-3538

e-mail：hqqouryu@belle.shiga-med.ac.jp

《プレスリリース発信元》

滋賀医科大学 企画(IR担当)課・阪井、三添

TEL：077-548-2012

e-mail：hqqouhou@belle.shiga-med.ac.jp

(別紙)

自主研修を行う医学部医学科第4学年の学生プロフィールと本人からのコメントは以下のとおりです。

○プロフィール

島田ゆうじ (シマダ ユウジ)

1995年ブラジル生/男性

1歳半から両親とともに滋賀県長浜市に居住

2014年滋賀県立虎姫高等学校 卒業

同年 滋賀医科大学医学部医学科 入学 (現在第4学年)

○本人コメント

今回、ブラジルのマトグロッソ連邦大学 (UFMT) にて研修をさせていただくことになりました。UFMT のキャンパスがあるクイアバという街は私の両親が育った場所であり、今回はブラジルで医師をしている叔母の紹介があり研修出来ることになりました。

もともと私はブラジル生まれですがほぼ日本で育ったため、ブラジルで過ごした記憶はほとんどありません。しかし日本で暮らしていても、幼いころから家族間ではポルトガル語を話し、日本で暮らすブラジル人同士の交流も盛んなため、私にとって母国は日本でなくいつもブラジルでした。もともと日本の医療だけでなく海外の医療にも興味があったため、この第4学年の自主研修では海外に行きたいと思っていました。海外でどの国に行くかを考えたときに、自分は生まれた国のことを意外と知らないことに気づきました。ブラジルでの医療制度はどうなっているのか、医療のレベルは日本と比べてどうなのか、医師はどんな環境でどんな風に働いているのか実際に自分の目で見てみたいと思いました。

滋賀県はブラジル人の人口がとても多く、彼らの中には日本の医療に対して不安や不満を持っている人がたくさんいます。彼らがブラジルで受けていた医療を直接見ることが、日本の医師に対して彼らが求めていることにつながると思います。言葉で説明されてもわからないブラジルの文化や慣習、ブラジルの医師のレベル、医療制度などを現地でしっかりと感じ取って、日本で暮らすブラジル人の医療のために生かしたいと考えています。

将来的に自分がどんな医師になりどこで働くのかまだ定まってはいませんが、現時点ではブラジル人が多いということもあって滋賀県で働くことも選択肢の一つとして考えています。もしそうなれば、滋賀の外国人医療に貢献できるような医師になりたいと思っています。

以上